

非営利法人ニュース

2020年
12月号
Vol. 91



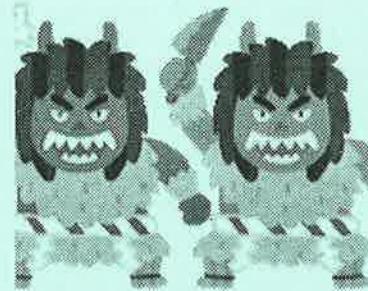
発行 公益総研 非営利法人総合研究所
東京都港区新橋6-7-9 新橋アイランドビル
TEL 03-5405-1811 / FAX 03-5405-1814
編集協力 (特非)国際ボランティア事業団・(公財)公益推進協会・NPO法人設立運営センター

★★ 返済のない奨学生のお知らせ ★★

【1】「中村道子奨学生」

『介護福祉士を目指す専門学校の第1学年生対象』

- 応募資格：一都三県（東京・神奈川・千葉・埼玉）の介護福祉士を目指す専門学校の第1学年に在学し、2022年3月に卒業見込みの学生
- 募集期間：2021年2月7日まで（当日消印有効）
- 採用人数：2021年度の奨学生は6名程度を採用します
- 給付等：専門学校1年間（12か月）、年額50万円を支給します



【2】「逸男記念 再チャレンジ奨学生！」

『一度進んだ道を軌道修正して再チャレンジしたいが、経済的理由により困難な学生向け』

- 応募資格：医療・福祉・看護に関する大学又は専門学校に進学
- 募集期間：2021年1月12日まで（当日消印有効）
- 採用人数：2021年度の奨学生は3名程度を採用します
- 給付等：大学（専門学校）在学中 年額60万円（合計240万迄）を支給します

◎情報満載！今月のもくじ◎

奨学生情報	1
非営利法人関連情報	2.3
CEOコラム	4
編集後記	4

【3】「シャンティ奨学基金」

『関西2府4県の大学文系女子学生向け奨学生！』

- 応募資格：大阪府・京都府・兵庫県・滋賀県・奈良県・和歌山県の大学の文系学部に在籍する四年生大学の2回生または3回生の女子学生
- 募集期間：2021年1月末日まで（当日消印有効）
- 採用人数：2021年度の奨学生は1名を採用します
- 給付等：年額50万円を支給します。

※詳しくは、財団ホームページ（<https://kosuikyo.com/>）をご覧いただき、申込書等はHPよりダウンロードし、必要事項を記入して提出してください

☆奨学生応募先等☆

【1】【2】【3】奨学生

→公益財団法人公益推進協会

応募用紙等郵送先
〒105-0004
東京都港区新橋6-7-9
新橋アイランドビル2階
(公財)公益推進協会
担当 高野宛

- ・中村道子奨学生
- ・逸男記念再チャレンジ奨学生
- ・シャンティ奨学基金

お問い合わせ
03-5425-4201
(問合せ対応時間：平日10時～18時)

※奨学生、助成金情報はリンクフリーですので、ご自由にリンクしていただき情報提供をお願いいたします

★非営利法人関連情報★

男の家庭進出 楽しく

盲ろう者向け老人ホーム開設を

NPO法人「おとつふあーざー」(福井県坂井市)は、子育ての楽しさを伝え、父親が家事や子育てに取り組むきっかけをつくる活動をしている。それがSDGsの分野別目標(5)「ジェンダー平等を実現しよう」に当てはまると考えている。代表理事の館直宏さんが保育士として働いていた頃、父親たちから、子どもとどう遊んでいいか分からないとの相談が多く寄せられた。そこで、遊び方の手本にと、親子で参加する催しを企画したのが活動の始まりだ。メンバーは男性ばかり12人。男性目線で父親の子育てを支援する。年五回、父親と子どもを対象としたイベントを開催。マスコットキャラクターの「子育て戦隊パパレンジャー」がショーをし、工作やクッキング、餅つきなども親子一緒に楽しむ。この中で、普段体験できない遊びと、日常生活で使える知識との両方を提供する。例えば、餅つきの際は、きねと臼を使って親子で餅をつことで非日常を楽しみつつ、父親は子どもに餅をどうおいしく、安全に食べさせるかという知識と技術も学べる。イベントは、意外にも母親の満足度が高い。父親と子どもが参加することで、母親がリフレッシュできるだけでなく、「夫が子育てに前向き、積極的になってきた」と、父親の変化を喜ぶ声が寄せられているという。館さんは「お父さんが(子育て)楽しめるようになった結果。お父さんがきっかけで家族が幸せになれる」と話す。コロナ禍で対面のイベントができないなってからは、動画投稿サイト「ユーチューブ」でパパレンジャーのショーをライブ配信したり、「たっちいパパのおうちでできるもへん！」と題し、子どもと自宅でできる遊びや料理を館さん自身が指南したりしている。館さんは「女性活躍」という言葉に違和感を覚える。「仕事も家事も子育ても頑張っている女性に『これ以上頑張れ』というのは厳しいのでは。お父さんはもう頑張らなくていいのか、と。女性の社会進出の土台は、男性の家庭進出だと思う」と言う。今後について「『子育てって面白いんだよ』と伝えることがきっかけで、子育てや家事を楽しむお父さんが増えて、父親の聖地と注目されるような福井をつくりたい」と意気込んでいる。

知的障害者らの自立を後押し事業所開所

小中学校特別支援学級の元教諭らが12月1日、兵庫県の加古川、高砂市にまたがる高御位山の成井登山口近くで、障害者の就労継続支援B型事業所「ファームハウスなるい」(加古川市)を開所させる。作物の栽培やカフェでの接客を通じ、知的障害などがある人たちの就職を後押し。施設長の筧千秋さんは「開放的な環境で、ゆっくり自立を目指してほしい」と話す。筧さんは25年間、中学校の特別支援学級に勤務。進路指導の一環として同様の作業所を見学し、「定年退職後は卒業した子どもたちが働ける場所をつくりたい」と考えたという。退職から1年後の2017年、築30年以上の空き家を改装し、前身となるNPO法人の事務所を構えた。所有する田畠で育てた作物を売ったり、カフェを開いたりして、事業所に移るための資金にした。事業所は、豊かな自然に囲まれる。約38年間、小学校の特別支援学級で教えた原田早苗さんら4人が職員として働き、筧さんの友人たちもボランティアとして支える。作業時間は平日の午前9時半～午後3時半で、利用者には、田畠で米や野菜の栽培に取り組んでもらう。飲食業界への就職を希望する人には、運営するカフェでの接客を体験してもらうことも考えているという。筧さんは「お米や野菜を育てることで達成感が生まれ、利用者の自信につながる。家庭的な雰囲気の事業所にしたい」と意気込む。定員10人で、18歳～60歳が対象。

*内容に関しては、問合せ先に直接問合せをお願いします

盲ろう者向け老人ホーム開設を

NPO法人「おとつふあーざー」(福井県坂井市)は、子育ての楽しさを伝え、父親が家事や子育てに取り組むきっかけをつくる活動をしている。それがSDGsの分野別目標(5)「ジェンダー平等を実現しよう」に当たる考えている。代表理事の館直宏さんが保育士として働いていた頃、父親たちから、子どもとどう遊んでいいか分からないとの相談が多く寄せられた。そこで、遊び方の手本にと、親子で参加する催しを企画したのが活動の始まりだ。メンバーは男性ばかり12人。男性目線で父親の子育てを支援する。年五回、父親と子どもを対象としたイベントを開催。マスクottキャラクターの「子育て戦隊パパレンジャー」がショーをし、工作やクッキング、餅つきなども親子一緒に楽しむ。この中で、普段体験できない遊びと、日常生活で使える知識との両方を提供する。例えば、餅つきの際は、きねと臼を使って親子で餅をつくことで非日常を楽しみつつ、父親は子どもに餅をどうおいしく、安全に食べさせるかという知識と技術も学べる。イベントは、意外にも母親の満足度が高い。父親と子どもが参加することで、母親がリフレッシュできるだけでなく、「夫が子育てに前向き、積極的になってきた」と、父親の変化を喜ぶ声が寄せられているという。館さんは「お父さんが(子育てを)楽しめるようになった結果。お父さんがきっかけで家族が幸せになれる」と話す。コロナ禍で対面のイベントができないくなってからは、動画投稿サイト「ユーチューブ」でパパレンジャーのショーをライブ配信したり、「たっちはいいパパのおうちでできるもん！」と題し、子どもと自宅でできる遊びや料理を館さん自身が指南したりしている。館さんは「女性活躍」という言葉に違和感を覚える。「仕事も家事も子育ても頑張っている女性に『これ以上頑張れ』というのは厳しいのでは。お父さんはもう頑張らなくていいのか」と、女性の社会進

目と耳の両方に障害のある「盲ろう者」を支援する和歌山市のNPO法人「和歌山盲ろう者友の会」が、市内で全国初の盲ろう者向け「住宅型有料老人ホーム」の開設を目指している。しかし、新型コロナウイルスの感染拡大で金融機関からの融資が中止に。募金活動も制限を余儀なくされ、建設設計画は止まつたままだ。同会は「一日でも早く盲ろう者が安心して暮らせる場所をつくりたい」と寄付を呼び掛けている。「コロナで困っているところへの融資が必要で、そちらには融資できない」。2020年9月、施設建設に前向きだった金融機関から電話でそう告げられた。他の金融機関からも良い返事が聞かれなくなった。2階建て建物に個室13室を設け、各部屋には振動で人の来訪を知らせる受信機もつける予定だった。盲ろう者に必要な「通訳・介助者」の確保にも一定のめどをつけていた。土地と建物を合わせた総事業費は約1億7000万円。20年初めには、金融機関数社が融資に理解を示してくれた。しかし、その後に拡大した新型コロナウイルスで、計画は頓挫した。全国盲ろう者協会(東京都)が12年に実施した調査では、盲ろう者は全国に約1万4000人。障害の程度は人それぞれで、手話や筆談、直接触れて手話を読み取る「触手話」など、コミュニケーションの手段もまちまちだ。一人一人に応じた「通訳・介助者」が必要とされる理由だ。高齢と共に視覚と聴覚の両方に障害を持つようになることが多く、65歳以上の高齢者が多いのも特徴という。ところが、同会によると、高齢の盲ろう者を専門に受け入れる老人ホームは現在国内にない。支援団体に資金がなく、通訳・介助者が集まらないなど、さまざまな障害があるためだ。高齢の盲ろう者は一般的の老人ホームに入所し、うまくコミュニケーション

(中日新聞11月13日)

「公共冷蔵庫」岡山で運用スタート

の上で、ハートとなる施設を22年にオープンする計画だった。融資の中止で瀬戸節子事務局長は「現状は厳しいが、絶対に必要な施設なので時間がかかるかも完成させたい。まずは必要性を知ってもらいたい」と訴えている。寄付は1口3000円で、期限は設けていない。(毎日新聞11月10日)



仲間のSOS、孤立防ぎ寄り添う大切さ学ぶ

ある人たちの就職を後押し。施設長の筧千秋さんは「開放的な環境で、ゆっくり自立を目指してほしい」と話す。筧さんは25年間、中学校の特別支援学級に勤務。進路指導の一環として同様の作業所を見学し、「定年退職後は卒業した子どもたちが働ける場所をつくりたい」と考えたという。退職から1年後の2017年、築30年以上の空き家を改装し、前身となるNPO法人の事務所を構えた。所有する田畠で育てた作物を売ったり、カフェを開いたりして、事業所に移るための資金にした。事業所は、豊かな自然に囲まれる。約38年間、小学校の特別支援学級で教えた原田早苗さんら4人が職員として働き、筧さんの友人たちもボランティアとして支える。作業時間は平日の午前9時半～午後3時半で、利用者には、田畠で米や野菜の栽培に取り組んでもらう。飲食業界への就職を希望する人には、運営するカフェでの接客を体験してもらうことも考えているという。筧さんは「お米や野菜を育てることで達成感が生まれ、利用者の自信につながる。家庭的な雰囲気の事業所にしたい」と意気込む。定員10人で、18歳～60歳が対象。

(神戸新聞11月23日)

www.ijerph.org | ISSN: 1660-4601 | DOI: 10.3390/ijerph17030894

由に話して 小中学生「たいわ室」

コロナ禍で会話の機会が減った子どもたちに自由話せる場を提供しようと、東京都渋谷区のNPO人がオンライン・コミュニケーションの場「たいわ」を開設した。NPOのメンバーが子どもの話し手になる。特徴は子どもに自己肯定感を持ってもらう対話方法。口コミで利用者が広がり、北海から沖縄県まで全国の小中学生約70人がリーターになったという。このNPO法人「トラストコーチング」は、子どもの自己肯定感を育むコミュニケーション方法を伝える「マザーズコーチング」主要事業の一つ。メンバー全員が認定コーチ。子どもたちを指導するのではなく、自発的に考へ、行動し、前向きな思考を持てるようにサポートする。たいわ室を開くきっかけは、新型コロナウイルスの感染拡大で、学校が長期休校になり、子どもたちを心配する声がメンバーの知り合いの教員保護者から上がったことだ。子どもたちの不安やストレスを軽減しようと、母親のメンバーを中心と有志18人が集まって五月に始めた。たいわ室では、メンバー一人と子ども一人が互いに都合のいい場所で、オンラインで会話する。子どもは好きな漫画や悩みについて自由に話し、メンバーは子

もが自ら関心を深めたり、悩みの解決策を考えたりするように促す。子どもたちからは「話をしてっきりした」「話すのがうまくなった」、親からも「親子間の会話が増えた」といった声が出ていると。関東担当のメンバー和田のあさんは「話をしてくれる人がいるという安心感を子どもたち持ってほしい。子どもが前向きに進めるよう支えたい」とした。1回30分で、月に2回で利用できる。費用はかかるない。

(家新報)(7月27日)

観光学ぶ リアフリー化に向け

島市隼人のNPO法人「ワーカーズ鹿児島は、障害や年齢に関係なく旅行を楽しめる「ユニバーサルツーリズム」の実地研修を肝付町で開いた。町内外の障害者や介助者らが観光地を回り、パリティフリー化に向け意見を交わした。県が同法人に委託するユニバーサルツーリズム促進事業の一環。障害の有無に関わらずスポーツを楽しむ肝付町の「パラスポーツおおすみ」が協力して、21日につくられた。視覚や聴覚、四肢に障害のある6人が高山三井観光（同町）のエレベーター付き大型バスに乗車し、内之浦宇宙空間観測所と町役場内之浦支所のロケット関連展示場を回った。手話通訳者も同行した。参加者からは「初めての訪問で大変新鮮だった」「行程に乗車時間の余裕がほしい」との意見が出た。視覚障害がある同町の外園健次さんは「観測所は敷地が広くてイメージしづらい。音声ガイドがあればいいと思った」と話した。共催した社会福祉協議会の津代幸一郎事務局長は「薩摩半島に比べ、パリアフリー化が遅れている大隅町でも楽しめることがある。旅行商品化に向け、できることを進めたい」と語った。

「こ窯様囲んで交流熱々ピザで元気発信」
城県丸森町のNPO法人「あぶくまの里山を守る」
が、ネコをかたどった石窯を町内に設け、現地で
1日、ピザなどを焼く交流会を開いた。昨年10月の
風19号豪雨で町内は甚大な被害があり、土砂と共に
流れ出た岩石で窯の土台を築いた。復興を願う域の
交流拠点としたい考えだ。会員ら約15人が出
。ピザを手作りし、多彩なトッピングで味わった。
一ストチキンも窯で作った。窯は7月、カフェの敷地
に完成。形状は、養蚕業の守り神として町内に石
が多く残る「猫神さま」にちなんだ。色とりどりのガ
ス片で窯の表面にネコの顔を描いた。土台の岩石
五福谷川が氾濫した向原地区で集めた。会理事
の大槻博さんは「被災後にみんなが奮起し、人が
える拠点ができる。丸森の元気を発信できる場に
ればいい」と語った。ピザの材料を自給自足で調達
することを目指し、近くの畑で小麦の栽培を始めた。
ギを飼い、乳で作ったチーズを使う構想もある。会
里山の保全活動をしており、窯周辺の山林で間伐
業なども行う。大槻さんは「防災につながる山づくり
を模索したい」と話す。

福島の現状を台湾に発信 県内ツアーラン

本に在住する台湾籍の若者たちが、東京電力島第1原発事故で被災した福島県を巡るツアーを取り組んでいる。原発事故後に福島産食品などの輸入禁止措置を続ける台湾に会員制交流サイト(SNS)を通じて復興の現状を伝える一方、1月には台北市でメンバーがツアーを報告するイベントも予定している。留学生や社会人ら24~3歳の男女5人による「福島前進団」は19日、中り地方を回った。このうち大学院生の謝秉澄さんは福島県須賀川市の農業設楽哲也さん方を訪

。風評被害で首都圏の取引先を失い、市内の食店に通って野菜を直接売り込んだ経験談に傾けた。設楽さんの農園で収穫された旬のサイモを使ったピザやスイーツも試食し、謝さんは福島産の食べ物はどれもおいしい。素晴らしさを台湾に発信する責任感が強まつた」と語った。1日から県内全域に足を運ぶ一行は18日、廃炉業者が進む福島第1原発の構内も視察した。最日の21日は福島大生との交流会に参加する。アーを発案したのは在日台湾人らでつくる「東台湾の会」の理事長を務める簡憲幸さん。台湾で日本で生まれ育った簡さんは「被災地の真のが台湾に伝わっていないのが悔しかった」と語る。発信力の高い若者が福島を歩き、ありのまま云えれば風評被害の払拭や禁輸措置の解除にながると考え、復興支援のNPO法人「元気になう福島」(福島県川内村)に企画を依頼した。メンバーはフェイスブックなどを通じて台湾の賛同を募り、1万人の登録を目指す。賛同者も今、日台で開くイベントなどに参加してもらう方針。リーダーの広告代理店経営吳廷中さんは「台湾人にとって原発事故があつた福島は負の印象強いが、われわれが新しいイメージに塗り替えと意気込む。

【家活用】生活弱者の居場所に

富士市のNPO法人ゆめ・まち・ねっと(渡部達也代表)は、独居の高齢者やひとり親世帯ら生活弱者を支援する取り組み「まちの立ち寄り処 おもしろい荘」を始めた。公的な支援などからこぼれ落ち、生きづらさを感じている人たちに居場所を提供し、行政や地域との橋渡しをする。渡部代表はこれまでに15年以上、若者の居場所づくりに取り組んできた。渡部代表の妻で同NPO法人の美樹事務局長が2019年12月から民生児童委員を務めていたのがきっかけで、十分な支援が得られない生活弱者の存在を再認識した。新型コロナウイルスの影響で民生委員の活動が縮小される中、「助けを必要としている人たちの孤立化が一層深刻になっている」(美樹事務局長)として、新たな事業を始めた。空き家を利用した活動拠点「おもしろい荘」を開設し、交流の場として利用してもらう。対象は限定せず、若者から高齢者、障害者、ひとり親世帯まで幅広く支援する。親子でも参加できるよう、開設日は原則毎月第3土曜とした。渡部代表は「コロナ禍であっても支援が途切れてはならない。感染対策をつつし、生きづらさを抱えている人たちの生活課題の軽減につなげたい」と話した。

放置自転車を海外に無償譲渡

大阪府豊中市は、放置自転車を撤去した後、保管期間を過ぎても引き取り手のなかたもの一部を「海外の子どもたちの通学用に」と無償譲渡している。2001年度から続けているこの取り組みに感謝した譲渡先の一つ、カンボジアの国王から市に友好勲章が贈られた。現地で自転車の贈呈に立ち会っているNPO法人の代表は「子どもたちは本当に喜んでいる。自分が学校を卒業したら次は弟、妹に譲って有効に利用している」と話している。市は放置禁止区域に置かれた自転車、原付きバイクを撤去し、市内2カ所の保管所で預かっている。しかし、保管期間(1カ月)内に引き取り手がなかった場合は、業者に売却処分するか、リサイクルに回している。リサイクルの一つが、公益財団法人自転車駐車場整備センター(東京)を通じての海外無償譲渡。センターには、他の自治体からも同様の提供があり、まとめて東南アジアの国などに送っている。通学用に役立ててもらうことを目的とし、受け入れ態勢なども考慮して送り先を決めているという。市によると、19年度に市が撤去した放置自転車(3848台)のうち引き取り手がなかったのは約4割にあたる1650台。このうち1607台を業者に売却処分し、37台をリサイクルに回した。市がセンターを通じて海外へ送り始めたのは01年度。これまでにタイ(2124台)、フィリピン(1132台)、カンボジア(450台)などに計4150台を送った。カンボジアではNPO法人「国際KJ O」が日本から送られてきた自転車を受け取り、子どもたちに渡すところまでを見届けている。代表の佐野昌宏さんは「地方では電車もバスもないうえ、中学まで10キロ、15キロという子も多い。贈呈式の前日からうれしくて眠れない子もいます」と話す。今回、カンボジア国王からの勲章を受章したのは豊中市のほか、東京都江東区など計5自治体。6月に佐野さんが代理で受け取り、11月27日に豊中市に届けられた。市交通政策課の村上彰主幹は「放置自転車は近隣の方からの苦情が寄せられる一方、撤去すると持ち主からの厳しい声も届く。引き取り手のないものは海外で役立てもらいたいという思いで続けているが、このように喜んでもらえてありがたいことです」と話し、「自転車は決められた所にとめてほしい」と呼びかけている。

(毎日新聞12月5日)

築100年超の古民家、私設図書館に

京都府八幡市八幡にある築100年超の古民家が改装され、私設図書館などを備えた「自由空間ぶどうの実」として生まれ変わった。市内の教会が遺贈を受け、無償で使える地域の憩いの場として整備した。趣深い外観を残しながら、ゆったりと過ごせる空間につくり変え「子どもだけでなく、大人も楽しめる図書館にしていきたい」と来館を呼び掛けている。八幡ぶどうの木教会が2年前、信徒から「地域のために役立ててほしい」と、民家を譲り受けた。前面の格子窓やはりなどを残しつつ、増築して2階建て延べ約160平方メートルに改装。11月にオープンした。1階には集会や調理などができる部屋があり、ピアノも設置。2階は児童書や漫画が並ぶ部屋や、絵本の棚を置いた部屋を設けた。裏手にはベンチを備えた庭が広がり、自宅のようにどこでもくつろいで本を楽しめるようにしているという。集いや読み聞かせ会などの活用も検討し、玄関の土間で駄菓子屋を開くこともアイデアとして挙がっているという。本を読むだけでなく、宿題をしたり、ぼうっと時間を過ごしたりといった訪問も歓迎する。谷口ひとみ館長は「自分の家のよう、ほっこりして過ごしてもらえれば」と話している。

(京都新聞11月30日)

「いったい国は何者か？どこにいくのか？」

公益総研株式会社 主席研究員兼CEO
公益財団法人公益推進協会 代表理事
(特非)国際ボランティア事業団 理事長 福島 達也



10月26日に召集された臨時国会で、ガースーこと菅義偉首相が就任後初の所信表明演説を行った。

世間の評価は、もっぱら「面白みに欠ける」「具体性がない」など、安倍ちゃんに比べると、故事や歴史的名言を引用するような情緒的表現はなく、「理念より実利」というガースーの性格を表しているような感じだった。

まあ、野党が問題視している「日本学術会議会員の任命拒否問題」に一切言及しなかったことなどどうでもいいので、それは良しとして、気になるのは、来年からさらに悪くなるであろう経済対策だ。

経済を破壊している最大の原因である「新型コロナウイルス対策」については、「状況は予断を許さない。爆発的な感染は絶対に防ぎ、国民の命と健康を守る」ということなので、具体的な策は何もないのだなあ・・・とガッカリだった。

特段、大きな経済対策もなく、落ちるところまで落ちないと、立て直しの案もないのだろう。本当に悩ましい・・・。

次に挙げたのは、「縦割り行政の打破」「行政のデジタル化」だが、こちらは具体策を列挙して持論を展開！おっ、こっちが本音だな！！ そうなのだ！“3大スガ案件”とも呼ばれる「携帯電話料金引き下げ」「デジタル庁創設」「不妊治療への保険適用」。これしかないと言っても過言ではないほど、ガースー政権はかなり低めの目標設定で、とりあえず無難に乗り切ろうという感じなのだろう。

早速携帯各社は値下げ戦争に突入し、今は「格安スマホ」という言葉は根絶しそうなほど、大手3社は「格安」に向けてシフトを切り始めてきたのだ。携帯各社はきっと、裏で「なんで俺たちだけがやり玉に・・・」という気持ちだろうが、携帯電話を持っていない人は少ないので、この料金引き下げは、市民にとってはかなり大きなプレゼントとなるだろう。そういう意味では、ガースーも流石だ！！

「デジタル庁」については私は大賛成だ！！というよりも、遅すぎるのではないかと思うほど、日本はアナログ社会なのだ！前から何度も私は言っているように、いまだにレジで現金で払っている「非国民」いや「クロマニオン人」たちを根絶させない限り、日本の発展はないと断言してもよい！

一番良いのは、昔の闇市や麻薬所持の摘発じゃないけど、「現金を持って歩いていたら即逮捕」「現金を取り扱うお店は強制的に営業停止」、それが一番良いのだが、ガースーにはそんな勇気も知恵はないんだろうなあ・・・ガッカリ。

窓口に行かないと手続きできない典型的なアナログ大国からの脱却も必要だ！、何としても中国や韓国並みのデジタル先進国にしてほしい。

コロナのおかげで、窓口に行かなくても、スマホやパソコンで何でも手続きできるという方向に向かいつつあるので、その辺りは急速に進展しそうで楽しみである。

そして今回、所信表明最大の大ぼらは、「温室効果ガス排出量を2050年までに実質ゼロ宣言」だろう。グリーン社会の実現ということにかなり力を入れるよう、成長戦略の柱として、脱炭素社会の実現を目指すと明言した。メディアのほとんどが「温室ガス2050年ゼロ宣言」を大見出しで伝えるなど、首相演説の最大の目玉となったのは間違いない！

ただ、遠大な目標に到達するための具体的工程については、「次世代型太陽電池の実用化のための研究開発」などを列挙しただけで、「再生可能エネルギーを最大限導入するとともに、安全最優先で原子力政策を進める」などの一般論に終始。

そうなのだ！ 71歳のガースーは、間違いなく30年後の2050年はあの世にいるわけだから、そんなに責任もないし、その方向に向かって、あとは次の首相にバトンタッチというわけだ！

30年後に野党から責任追及される心配もないのだから、目標をかなり先に設定するというのは、これから、多くの政治家の間で流行るかも・・・。そのころは自民党もないだろうし・・・

演説の締めくくりでは、自らの自指す社会像として「自助・共助・公助、そして絆」だ。なんだそれ？ちゃんとわかるよう話してほしい。「自分で何とかしろ」「みんなで何とかしろ」「最後に政府もついでに頑張る」って！！これじゃあ、まるで政府のコロナ対策と同じだ！

とにかく、今回の所信表明を聞いて、この暗黒の時代を切り開く最善の策はないのだということが良くわかった。コロナのおかげで経済は地に落ち、会社はつぶれ失業者は増え、でも病気で亡くなる人は激減するけど自殺者だけは増えていくという最悪な状態を回避することはできないのだろうか？？

今年は終わるが、来年が怖いと思うのは私だけだろうか？

でも、私は断言したい！！

2050年にはきっと車は空を飛び、地球以外の星で暮らすことができるようになり、病気も全部治るのだろうと！！

そして、このコラムももっと面白くなるだろう！って・・・生きてれば(笑)

.....CEOコラムバックナンバーはこちらから https://www.iva.jp/nposouken/ceo_column.html

編集後記

最近、投資に興味を持ち時間があるときは勉強をするようになりました。将来の不安からなのか、特に若年層で投資デビューする方が増えたようです。昔はどのように情報を得ていたのか分かりませんが、今ではオンラインセミナー、SNS、You Tubeなど色々なところから情報を得られるので敷居が下がったのかもしれませんね。残念ながら今後の日本では経済は衰退傾向にありますので、成長が見込める国に投資をして、その果実を享受することにより少しは豊かな生活ができれば良いなと思っています。

(ごんべい)